

| | | | | | | |
|----------------|--|-----------------------------------|-------|-----|-------|--------------------------|
| 学校 教育 目標 | のびやかに バランスよく 生きる力を育てます | | | | | |
| | (1) めあてに向かって粘り強く取り組む子どもを育てます。「知」 (2) 思いやりの心をもって活動し、自分や他人の生命を大切に子どもを育てます。「徳」「体」 (3) 人とのふれあいを通して、お互いのよさを認め合い、積極的に友達や地域とかかわる子どもを育てます。「公」「開」 | | | | | |
| 学校 概要 | 創立 12 周年 | 学校長 | 藤崎 健児 | 副校長 | 山口 祥子 | 2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 4 |
| | 児童生徒数: 310 人 | 主な関係校: 野庭中学校、丸山台中学校、下野庭小学校、丸山台小学校 | | | | |

| | | |
|------------------------|--|---|
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 丸山台中・野庭中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| <自分づくりに関する力> | 野庭中学校 丸山台小学校 下野庭小学校 野庭すずかけ小 学校 | ○いつでも元気よくあいさつできる子ども ○自分も仲間も大切 にできる子ども ○すすんで学習しようとする子ども ----- 小中の連携を深め、授業力の向上を目指して ・授業参観及び研究協議の機会を年4回設定します。 ・担当者会議を年5回設定します。 ・小中職員が一堂に会する合同研修会を年1回設定します。 |

| | |
|----------------|--|
| 中期 取組 目標 | ○児童一人ひとりが学校を楽しみにし、楽しく学習し、満足した笑顔で下校する学校にします。 ・授業やふれあい活動、行事を通して、児童の自己有用感を育みます。 ・自分の想いをもち、その想いを伝えたり、友達の想いを受け止めたりできる心を育てます。 ・わかる楽しさを味わえるような授業の工夫により、児童が意欲をもって学習に取り組めるようにします。 ・授業を通して、子どもたちの人権意識をさらに高めます。 ・規範意識が高く、礼儀の大切さを知り、あいさつが響く学校にします。 ・「チーム野庭すずかけ小」として、全教職員で児童に寄り添う指導を行います。 |
|----------------|--|

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------------------------|--|
| 生きてはたらく知 | ①ユニバーサルデザインの考えを意識した学習展開や支援・手立ての工夫、少人数指導やTT・一部教科担任制の積極的な導入などにより、一人ひとりの児童に合ったきめ細かな指導を行い、「わかる授業」への改善を図っていく。②重点研究のテーマを「生き生きと学習に取り組む子どもたちの育成を目指して」とし、国語の学習を中心として、魅力ある言語活動の工夫により学習意欲を継続させながら思いや考えを伝える力を伸ばしていく。 |
| 担当 教務部 | |
| 豊かな心 | ①「特別の教科 道徳」の指導を工夫する。②ふれあい活動の充実を図る。特に教育活動全般にペア学年での活動を多く取り入れ、思いやりの心を育てる。認め合いから児童の自尊感情を育む教育活動を行う。③あいさつを年間を通してペア学年で行う。また、キャンペーンを年間通して設定する。家庭とともに連携して日常化を図る。 |
| 担当 道徳教育推進・道徳部 | |
| 健やかな体 | ①望ましい運動習慣が身に付くよう、主に「体づくり運動」を取り上げ一校一実践運動を行い、運動の日常化を図る。②学校保健委員会の「朝から元気!!」の取組とリンクしながら、望ましい生活習慣について家庭との連携を深める。③栄養士と連携しながら、食育に関する指導を取り入れる。 |
| 担当 体育部 | |
| 児童生徒指導 | ①「野庭すずかけスタンダード」をもとに、全職員で共通した指導を行う。また、児童の実態に応じて見直し、修正を行う。②児童が望ましい規範意識をもち、豊かな人間関係をつくれるよう、児童に寄り添った丁寧な指導を行う。③全職員で児童の情報を共有し、指導や支援の方法について共通理解を図る。 |
| 担当 第2委員会 | |
| 特別支援教育 | ①校内委員会等を通して、特別支援教育を必要としている児童について特性や実態を把握し、全職員で共通理解し、適切な支援を行う。②個別支援学級児童の交流を継続して行い、社会にはいろいろな人がともに助け合って生活していることを理解できるようにする。③特別支援教育についての研修を行い、障害特性についてやその支援方法などについて理解を深める。 |
| 担当 特別支援教育校内委員会 | |
| 地域連携 | ①学校行事を多くの地域の方に見ていただく機会を設けたり、学校ホームページにより学校の行事や児童の様子を紹介等を積極的に行い、情報の発信を継続する。②地域の施設を積極的に学習に活用したりボランティア等地域人材の方との連携をより一層深めたりして、地域に開かれた学校づくりを進める。 |
| 担当 教務部 | |
| いじめへの対応 | ①児童一人ひとりが自分や他の人のよさを認め合い、誰もが安心して豊かに生活できる環境をつくる。②児童に対して定期的なアンケートや個別の面談を実施し、児童一人ひとりの気持ちに寄り添うとともに状況の把握をし、いじめの未然防止に努める。③いじめの未然防止とともに早期解決を目指し、保護者、地域や関係機関と連携し、情報を共有しながら指導にあたる。 |
| 担当 第2委員会 | |
| 人材育成・ 組織運営 (働き方改革) | ①教職員の資質・指導力向上を目指し各種研究・研修を計画的に行い充実を図る。・校内重点研究:本校児童の実態から作成したテーマを全教職員・全教育活動で追究し、児童の学力向上とともに教職員の指導力向上を図る。・メンター研修:校内ミドルリーダーはじめ外部機関等の力を借り授業を通して計画的に研修を積み上げる。・ブロック学年研:行事、学習、児童指導等運営の単位としてブロックを効果的に活用し教育活動の質の向上に努める。・その他研修で学習・児童指導力並びに教職員としての資質向上を図る。②働き方改革及び組織の効果的運営を目指し、適材適所の組織運営、PCを使った情報共有、会議の精選及び効果的運用に努める。 |
| 担当 教務部 | |